



平成 26 年 9 月 5 日
海 上 保 安 庁

夏季安全推進活動期間の事故発生状況 速報値 (7月1日～8月31日の2か月間)

人身事故発生状況の特徴

マリンレジャー活動に伴う海浜事故者数(328人)及び死者・行方不明者数(87人)は過去5年間で最少

遊泳中の事故者(200人)及びそのうちの飲酒をしていた事故者(24人)は過去5年間で最少

15歳以下の子供の遊泳中の事故者数(45人)は過去5年間で最少

プレジャーボート等の事故発生状況の特徴

事故隻数(273隻)は過去5年間で最少

事故の種類は依然として「機関故障」や「過放電」「燃料欠乏」で約3割
花火大会に伴う乗揚事故が増加、要注意!(18隻(前年比+7隻))

(詳細:別添1、別添2)

1 人身事故(マリンレジャー活動に伴う海浜事故)

事故者数328人、うち死者・行方不明者 87人

【過去5年間の夏季安全推進期間における事故者数の推移 単位:人】

	22年	23年	24年	25年	26年
事故者数	411(150)	410(125)	430(128)	370(119)	328(87)

・ ()内は死者・行方不明者数で再掲

・「マリンレジャー活動」とは遊泳、釣り、磯遊び、スキューバダイビング、サーフィン等をいう。

2 船舶事故(プレジャーボート等)

事故隻数 273隻、船舶事故に伴う死者・行方不明者 2人

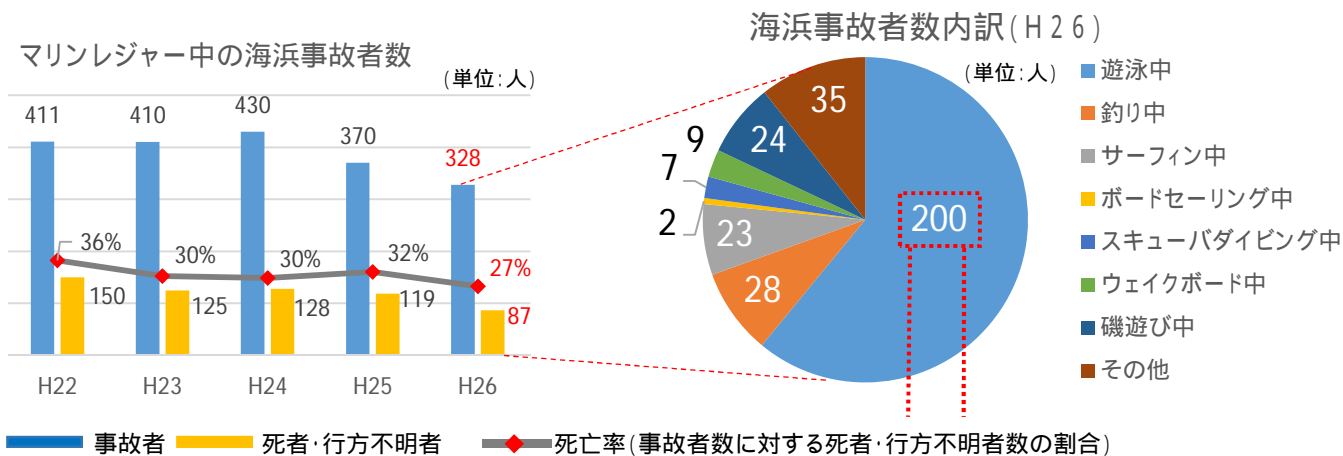
【過去5年間の夏季安全推進期間における船舶事故の推移】

	22年	23年	24年	25年	26年
船舶事故(隻)	313	313	342	314	273
死者・行方不明者数 (人)	2	4	3	3	2

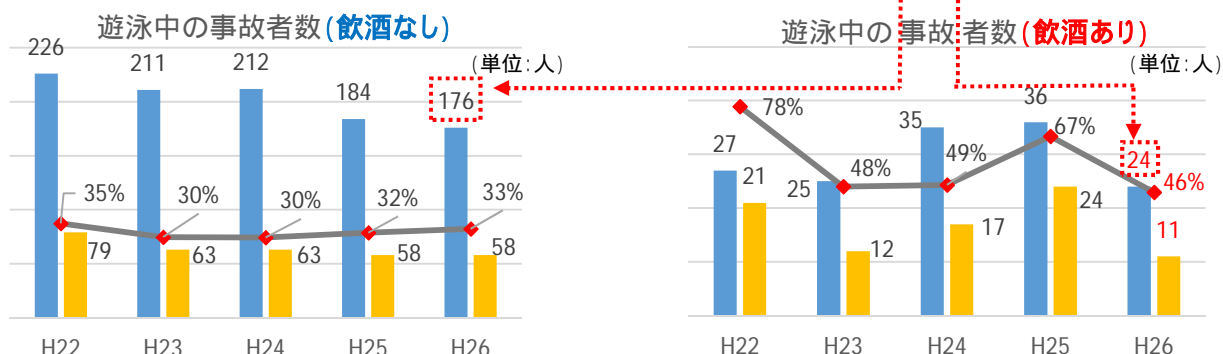
・「プレジャーボート等」とはプレジャーボート(モーターボート、ヨット、水上バイク等)及び遊漁船をいう。

マリレジャーに伴う海浜事故の傾向（過去5年間の7月・8月）

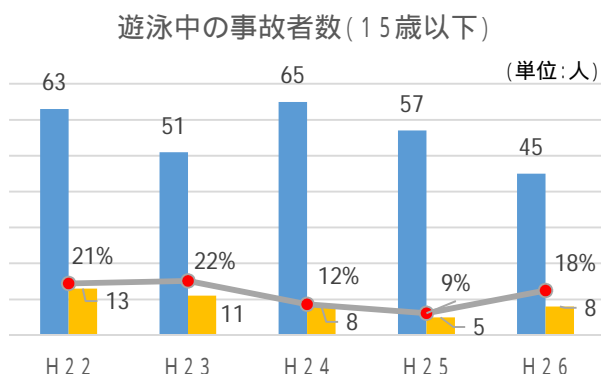
マリレジャー中の海浜事故者数のうち死者・行方不明者数が平成13年以降初めて100人を下回り、死亡率も初めて30%を下回った。
例年どおり、海浜事故者のうち遊泳中の事故者がほとんどであり、平成26年は、約6割を占める。



遊泳中の事故者数及びそのうちの飲酒をしていた事故者数はいずれも過去5年間で最少
遊泳中の事故者のうち、飲酒をしていなかった事故者の死亡率33%に対し、飲酒をしていた事故者の死亡率は46%であり、遊泳時の飲酒による死亡のリスクは非常に高い結果となっている。



15歳以下の遊泳中の事故者数は過去5年間で最少



事故事例

【酔泳事故事例】

事故者2名は、会社の同僚と海水浴場で飲酒を伴うバーベキューを行った後、沖合いの離岸堤付近の遊泳禁止区域で遊泳中のところ、深みに足を取られて溺れ、沖合いに流されて行方不明になった。その後、2名とも発見されたが、死亡が確認された。

【子供の事故事例】

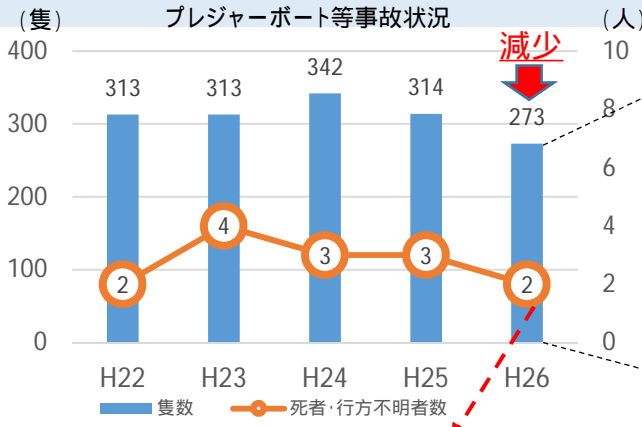
事故者は父親と兄弟等で海水浴をしようとしていた。父親が遊泳準備中に目を離した際、事故者を含む子供が遊泳を開始したところ、事故者が沖合いに流され、姿が見えなくなった。その後、海底で沈んでいるところを発見されたが、死亡が確認された。

船舶事故発生状況

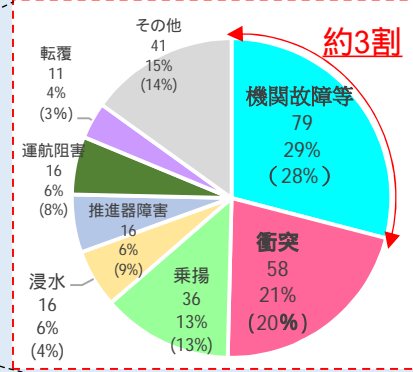
プレジャーボート等の事故傾向（過去5年間7月・8月）

事故隻数は**過去5年間で最少**

事故の種類は依然として「機関故障」や「過放電」、「燃料欠乏」によるものが**約3割**



H26年プレジャーボート等事故種類別割合 ()内は過去5年平均値



機関故障等とは、機関故障のほか過放電、燃料欠乏を含む。

死者・行方不明者を伴う事故

【水上オートバイ事故】

7月6日1510頃、宮城県東松島市宮戸島において、水上オートバイ(乗船者1名)で操船し航行中、岩場に衝突。乗船者1名死亡。

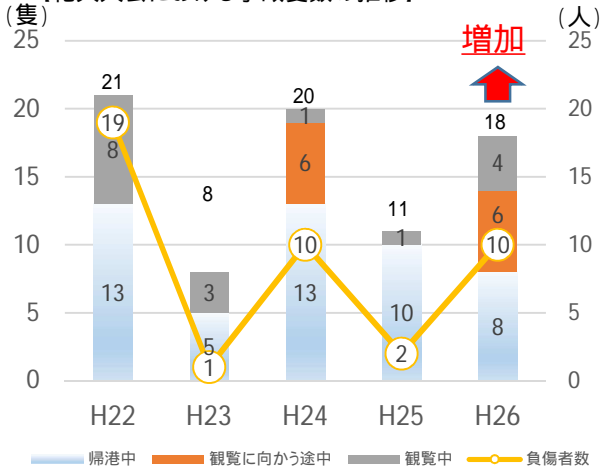
【モーターボート事故】

7月31日2246頃、石川県金沢市金沢港内において、モーターボート(乗船者3名)が帰港中、物件に衝突。乗船者1名死亡。

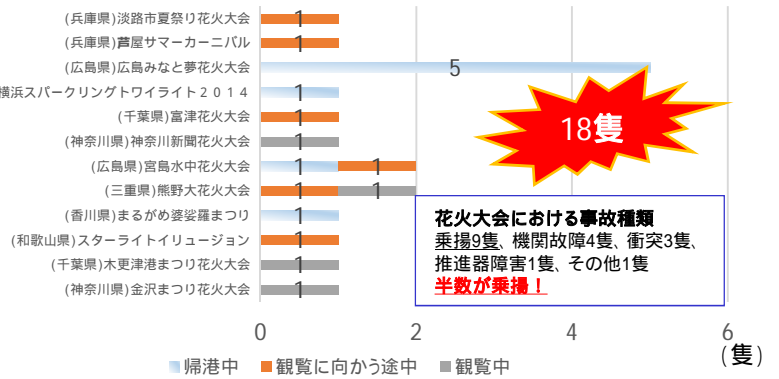
花火大会事故状況（過去5年間7月・8月）

花火大会に伴う事故が**増加(前年比+7隻)**

【花火大会における事故隻数の推移】



【各花火大会における事故隻数の状況】



花火大会における事故種類
乗揚9隻、機関故障4隻、衝突3隻、
推進器障害1隻、その他1隻
半数が乗揚！

引き続き花火大会における事故に**要注意！**

カキ筏に乗揚



防波堤に衝突

